



高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



Secretary 幹事報告

第30回 通算1264回

1. ガバナー事務所より
地区補助金ニュースが届いています。
2. ガバナー事務所より
「WCSニュース」第2号が届いています。

例会変更

- 加古川中央ロータリークラブ
3/30 (木) ⇒ 休会
4/13 (木) ⇒ 4/9 (日) 花見例会のため
5/4 (木) ⇒ 休会

Donation ニコニコ報告

高砂R.C.会長 西川 敏彦

青松クラブの皆さん今日はお世話になります。
又、増尾先生ありがとうございます。

高砂R.C.幹事 片嶋 純雄

本日大変お世話になります。

大森 千里

高砂R.C.との合同例会を祝して。講師の増尾先生、有難うございます。

先日の地区大会には澤田幹事の車に乗せていただき、有難うございました。

志方正昭

増尾先生、本日はありがとうございます。

元 正章・森脇 祥文・田中 伸明
増田耕太郎・小西 文孝・内橋 英昭
都倉 達殊・中右 和宏・柿木 國夫
濱中 幹雄・廣瀬 明正・志野木貞夫
嶋谷 拓雄・田水 敬雄・伊藤 勝之
岡本 崇司・菱田 克己・西田 光衛
井野 隆弘・庄司 武・竹原 俊三
松尾 毅・植杉成一郎・佐野 栄作
辻田 重恵・鹿間 虹美

合同例会を祝して。



例会記録 2006. 3. 8 (水) 通算1335回

ソング 「我等の生業」

来訪ロータリー アン報告
室田 隆重 様 (姫路中央R.C.)
八木 源司 様 (明石西R.C.)

出席報告
2月22日 会員数 54名 欠席者 4名 出席率 92.59% <修正による>
3月8日 会員数 54名 欠席者 16名 出席率 70.37%

会長 栗原 康高 幹事 澤田 孝彦 クラブ会報委員長 菱田 克己
例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室 (2F)
事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (0794) 43-0500(代)

高砂R.C.との合同例会 於：高砂神社会館 Dream ディスカバリーハイスクール 夢の実現ができる学校

講師 兵庫県立神崎高等学校 校長 増尾禮二 様

Discovery & Achiever 発見そして達成

「夢をはぐくみ、夢を実現する高校」県立神崎高等学校の特色

《完璧な生徒指導に裏打ちされたさまざまな特色ある取り組み》

1. 30分授業の実施 (英数国等の科目の基礎基本の定着を目指す)
2. 4類型の設置 (地域の特性を生かし、地域のニーズに応える「福祉教養・木工クラフト・健康スポーツ・インターンシップ」)
3. 4類型の体験的な授業、実習・実技的な授業をおくディスカバリーアワーの設置
4. 通年、地域の幼稚園・保育所に出かけ、自己表現能力の向上を目指すコミュニケーション授業の実施
5. 2つの文部科学省指定事業の実施 (豊かな心を育てる体験事業「長期宿泊体験・神崎ディスカバリー村」、同体験事業「地域間交流」)
6. 夢を実現するための充実した授業と洗練されたカリキュラム、夢を目的に変えるガイダンスシステム
7. 学校から地域へ、学校から全国へディスカバリー・ハイスクール神崎高校の熱気を発信

3年計画とは

- 平成15年度 (リカバリー&ディスカバリー)
 - ・生徒指導の正常化⇒募集枠以上の受験生を集める
 - ・魅力ある新しい学校システムの開発
 - ・コミュニケーション授業の成功
- 平成16年度 (ディスカバリー&クリエイション)
 - ・新しいシステム (ディスカバリー・ハイスクール) の成功
 - ・さらに魅力度を向上させ 複数志願・特色選抜制度を追い風に
 - ・教科指導の向上 ・戦力の充実
- 平成17年度 (ディスカバリー&アチーバー)
 - ・ディスカバリー・ハイスクールを全国へ発信し、全国から注目を浴びる
 - ・学校として、独立30周年を向かえる準備を
 - ・進路指導と部活動の充実



特色ある事業

- 二つの文部科学省研究指定
- 部活動 (1年生全入と新設の部活動)
- 開かれた学校づくり
- 地域貢献事業
- スーパー・オリエンテーション
- 教えるプロの育成
- 広報活動

生徒指導についての考え方

- ・「是非の徹底」 妥協しない心
- ・「小さなことを見逃さない」 愛情の目と声掛けの勇氣
- ・「共通認識と協働実践」 池の堤
- ・「環境を美しく」 破れ窓理論
- ・「授業の正常化」 学校教育の根幹
- ・「基礎基本の徹底」 言葉遣い・返事・挨拶
- ・「緊張と緩和」 わかる授業・楽しい行事
- ・「初期対応」 謝罪から入らない指導
- ・「スピード第1」 改革 (課題解決) と危機対応
- ・「集団に対する対応」 心理分析・勢力分析 (分断)

「教育困難校」脱出の戦い

教師全員が一丸となった。増尾禮二校長のもと、県内でも最低レベルの「教育困難校」と言われた神崎高校の汚名返上の戦いが始まった。ユニークなカリキュラム「ディスカバリーハイスクール」が、生徒たちに大きな変化をもたらすきっかけになったという。しかし、生徒たちが変わったのはそれだけが理由ではないようだ。何が短期間で生徒を、学校を変えたのだろうか。

増尾校長が2003年春に赴任するまでの神崎高校は、喫煙は日常茶飯事、教師に唾を吐きかけたり、授業中の教室内にジャージを敷いて寝転がる生徒もいた。通学路での問題行動などが原因で、地域の人たちからは「廃校にしてほしい」と言われるような学校だった。

この学校を変えなければならぬ。そう決意した増尾校長が、真っ先に全教員に告げたのが、「何かあったら、責任はオレが取る」という言葉だった。

増尾校長は、当時を振り返る。「教師が生徒に対して腹をくくり、教師を教師とも思わない生徒たちに物事の是非をたたき込まなければならぬ。そのために、教師には断固とした態度が必要だったのです」

生徒を変える前に教師が変わり、生徒指導を正常化することに取り組んだのだ。「悪いことは、悪い」と、はっきり言える教師。自信をもって生徒に向き合い、指導できる

教師になることを求めた。

それを実践するために、学校内で教師たちは研修や報告会を重ねた。いろいろなケースを想定し、生徒や保護者への統一した対応、態度を身につけた。

また、一人一人の教師たちにアイデアを求め、生徒たちのための行事立案や学校作りに積極的にかかわらせた。

こうした「教師力」の強化と並行しながら、04年度から「ディスカバリーハイスクール」が動き始めた。「自分の居場所を失った子どもたちがもう一度、夢を見つけ、それを実現できる学校」

それがこのカリキュラムの目標だった。授業時間の短縮、ユニークな部活動、地域の人たちの協力を得ながら実現した「ディスカバリー村」での体験作業。通常のカリキュラムでは得られない刺激や変化を与えて子どもたちの自主性を培い、達成感を与える。

こうした努力の結果、退学者数が激減。04年度からは定員割れが止まり、05年度は学校ごとの裁量で選抜方式を選べる「特色選抜」で、県立高校では最高の4.13倍という人気校になった。(途中省略)

理由は、むしろ教師の団結力にあるように思える。教師たちが生徒に対する「共通認識」「共同実践」を徹底できたこと。言い換えれば、どの教師でも生徒の同じ行動には同じ対応をする。つまり、「先生がぶれない」ことだ。それが生徒たちの意識を変えていった。

(サンデー毎日一部抜粋)

2005～2006年度 国際ロータリー第2680地区 地区大会に参加して

幹事 澤田孝彦

非常に穏やかな3月5日。神戸のポートピアホテルにて年次大会が石井ガバナーの点鐘のもと静かに始められました。

午前中のプログラムがR.I.会長代理・来賓紹介に始まり参加クラブの紹介、来賓挨拶では井戸兵庫県知事に続き白井尼崎市長の祝辞の後、ガバナーよりの地区現況報告・R.I.会長代理より挨拶ならびにR.I.現況報告にて午前中の予定を終了しました。

午後からは各表彰から始まりましたが、2名の方が「超我の奉仕賞・ガバナー特別栄誉賞」を受賞されました。この賞は地区では初めての受賞となるそうです。また在籍50年表彰の受賞者が3名で、大きな拍手の中での授賞式でした。

委員会報告・大会決議案上程に続き規定審議会立法案審議と会は進行し非常に難しい案件を報告協議いたしました。

記念講演「最近の国際情勢と日本の立場」と言うテーマで元NHK解説委員「平野次郎」氏の講演を聞き入りました。非常に優しい口調で分かりやすい講演でした。その後のフォーラムでは、ガバナーとパストガバナーの皆さんが「クラブの活性化とこれからのロータリー」をテーマに活発なディスカッションを行い、「会員増強や、退会防止、そして魅力あるクラブ運営等々」についての意見交換を行いました。

いよいよガバナーエレクト紹介・挨拶により年次大会の一日が終わり、神戸の夜を Hammond オルガンとラテン音楽での懇親会を満喫しました。

会場内に事業案内の掲示板があり、「マーチングイン高砂」の写真と紹介記事を掲示し、他のロータリアンにも活動の一端を紹介してきました。

President 会長の時間

失礼致します。

本日、今年度に入り2回目の高砂クラブさんとの合同例会、今回、私たち青松クラブの担当になっております



ので私より一言挨拶を申し上げます。日頃は私ども青松クラブのスポンサークラブとして、ご指導、ご鞭撻を頂戴いたしております事、クラブを代表して、心より御礼申し上げます。扱て、昨年は高砂クラブさんがホストされましたI.M.スクールウォーズで有名な山口監督をお呼びになり、荒廃した学校をラグビーを通じて立て直された苦労話をお聞かせ頂きました。

前回の合同例会、この高砂で中学生改革では第一人者と言われる岸本校長のお話をお聴きいたしました。又、先月加古川クラブさんのI.M.青少年問題と大人の本気のテーマで、警察庁生活安全局長 竹花 豊氏の講演をお聴きいたしました。今日の例会、青少年学校教育において、是非ともお話をお聴きたい神崎高校増尾校長に御出で頂きました。先生の事は、昨年11月13日発売のサンデー毎日に掲載されましたが、私が知る増尾先生、もう長年のお付き合いの中、多くの思い出が有りますが、神崎高校に赴任して間もなく、夕方

遅くなると、高砂の街に私どもの会社に顔を見せる、あるとき私とその訳を聞きますと、「生徒を再教育するには、まず先生の教育からですわ」と応えました。荒廃した学校生徒に毅然とした態度で臨んで欲しい。そのためには、強い意志と体力が必要と考えた先生は、数名の教師を岸本校長が指導する沖縄空手 小林流妙武館に入門させ、自らも付き添って教えられる為、高砂に御出でになっていました。わが社には高校時代、柔道で増尾イズムを叩き込まれた教え子が4名います。それぞれ大学を卒業し、縁あって我が社の社員として在籍しています。性格そのものは違いがありますが、彼等4人共通して言うには、人に舐められる人間、言い換えますと、馬鹿にされる人間には絶対なりたくない、ならない。その為にはどの様な努力でも惜しまない。

私が可成の重荷をかけても彼等の口からは、出来ない弱音を殆ど聞きません。増尾流人間教育の目的と其の成果を見ている気が致します。

一流大学を目指す教育も大事な事だと思っておりますが、落ちこぼれそうになっている生徒をどう立ち直らすか、現代も続けておられるディスカバリーハイスクール神崎高校、只今から講演していただきます。宜しく願いたします。



プログラム予定

3月8日(水)	3月15日(水)	3月22日(水)	3月29日(水)
高砂R.C.との合同例会 PM12:30~ 講師 兵庫県立神崎高等学校 校長 増尾禮二 於:高砂神社会館 【プログラム委員会担当】	職場例会 PM12:30~ 於:特別養護老人ホーム 常寿園 【職業奉仕委員会担当】	卓話 柿木國夫 会員	卓話 田水敬雄 会員